

ネット社会から子供を守る道徳授業の視点 知識・対処方法の根底となる心根を明らかにする

最近の調査によるとほとんどの家庭でメールやインターネットのできる環境が整えられており、8割近い子がスマートフォンやパソコン、ゲーム機など、自分専用の機器を使ってネット社会に参加しているとのこと。このような中で、ネット犯罪の被害者となったり、本人が犯罪の意識がないまま行った行動で加害者となったりする子供も出ています。ネットによるいじめやネットへの書き込みに端を発した暴力等の問題行動で、学校が対処しなければならないケースも起きています。

また、子供のネット利用時間は増え続けています。「ネット依存」という言葉が普通に使われるようにもなりました。ネット依存が進むと、利用時間や利用方法を自分でコントロールできず、社会生活や人間関係、家族関係に悪影響を及ぼすだけでなく、身体・精神面で治療が必要となるケースも出ているそうです。厚生省や総務省の調査では、中高生の8%がネット依存傾向にあることが分かりました。学校でのいじめなら学校を休めば逃れることができますが、現実世界から逃避し、ネット世界中心で生きているネット依存の子供たちがネットを通じていじめを受けたとしたら、想像しただけで恐ろしくなります。

インターネットや携帯・スマホの利用は家庭で行われており、使わせ方の監督や監視の責任は、本来は保護者にあります。ところが、現実には、子供のネット利用に無関心・無知・無責任な家庭で多くの問題が発生しています。小学校の高学年でスマホの利用率が上がっています。ネット社会に生きる子供たちを、被害者にも加害者にもしないためには、保護者に指導の協力を求めるだけでなく、情報の扱い方や付き合い方に関する指導や、すべての子供たちを対象にネット依存を防止するための指導を学校でしっかりと行わなければならない時代になりました。

●子供の情報モラルを高める

『私たちの道徳』では、情報モラルに関する学習内容として、次の内容が取り上げられています。

【1・2年生】なし

【3・4年生】コンピュータや携帯電話の使い方

- ・オンラインゲームで学習がおろそかになったり、生活のリズムを崩している例
- ・商品勧誘電話やメールで聞かれるがままに自分や友達の個人情報を流出させた例

【5・6年生】パソコン、携帯・スマホ、ゲーム機・タブレットPCの使い方

- ・利用頻度・時間の調査結果と自分との比較
- ・オンラインゲームのやり過ぎの例
- ・メール書き込みで個人情報を流出させた例
- ・何も考えずにチェーンメールを送った例
- ・メールでの表現で誤解を招いた例

【中学生】 情報社会の光と影

- ・情報化が及ぼす問題（モラルと依存に関する節度ある利用）
- ・ネットによる犯罪とネットいじめの例

『私たちの道徳』の小学校版で取り上げられている例を見ると、主に自分自身に関する指導と、他人との関わりに視点を当てた指導が中心となっています。ルールを作って守らせるような特別活動的な指導ではなく、できるだけ自分自身の価値観や判断に基づいて自分の行動をコントロールし、自律的に行動できるように育てるための、道徳の特質を生かした指導を行いたいものです。

OKリンクに、5年生を対象とした情報モラル教育指導実践指導例 全国版（実践事例 No.048）があります。ネット掲示板に悪口ではなく、良い内容を書き込まれたにもかかわず、友達が嫌な思いをしたという事例です。

- 目標
- ・他人や社会への影響を考えて行動する
 - ・情報発受信に関するマナーを知り、守る。

展開例

- ① 掲示板について知る
- ② 資料を読む
- ③ 発問1 けんじとたかしはどんな友達か
- ④ 発問2 どうしてけんじは内緒にしておいてほしいのか
- ⑤ 発問3 どうしてたかしは迷ったのか
書き込む場合と書き込まない場合の話合い
- ⑥ まとめ&授業感想の記述

ネット掲示板を通して、ネットのつながりそのもののもつ危険性に気付かせられる良い事例です。活動⑤の「けんじに対するたかしの様々な思いに共通するもの」がこの事例を通して子供が学ぶ道徳性になります。活動⑤と⑥のつながりで、その部分を考えさせてください。知識や対処・解決方法の学びに加え、あえて少し時間を取って、解決方法や対処方法の根底にあり、そこに共通する心根を考えさせる。そこを丁寧に扱うことで道徳らしい情報モラルの授業となり、自分だけでなく相手のことも大切にしたい行動を自律的に行える子供を育成できるものと考えます。

●ネット依存から子供を守る

平成25年4月から「21時以降のスマホ使用禁止」を小中学生をもつ全家庭に要請した市があります。岡崎市でも中学生フォーラムで「SNSとの付き合い方 3つのルール」が採択されました。約束事を決めて使用を制限しようとする動きは全国に広がり、「共通ルールができて止めやすくなった」「ぐっすり眠れる」等の好意的な意見もあります。しかし、「4月以後も9時以降にメールは来ている」と答える子供がいるように、個々の子供の自律的な判断力や行動力が育たなければ規制の効果は上がりません。

東京大 橋元良明氏は、「やりたいこと、やらなければならないことが分かっている子供はハマりすぎず、LINEなどとも距離を置いて付き合い合っている」と言います。ITジャーナリストの高橋暁子氏は、『ソーシャルメディア中毒』（幻冬舎E新書）で、「将来なりたいものややりたいことがわからない子、可処分時間が多く時間をもてあましている子、学業や部活などで認められる機会がな

い子、孤独に弱く他人の目を気にしすぎる子、自分の端末を持ち、自分の部屋があり、自由に利用できる環境がある子がネット依存になりやすい」「両親が子供のネット、スマホ、SNS利用に無関心だったり、両親自身が子供の前で頻りに利用したりしている場合はネット依存を助長させる傾向にある」と言います。高橋氏の著書に見る高校生のように、「今から勉強するから電源を切るからね」と友達に宣言し、学習中は電源を入れない。このように自信を持って対処できる子は、ネット依存にはなりません。そのためには、高学年なら1-（1）節度、1-（2）勇氣、1-（3）自律、1-（6）個性の伸長、2-（1）礼儀、2-（2）思いやり、2-（3）友情・信頼、4-（1）規則の尊重等の内容項目の指導が役に立つと思います。

SNSを利用する中高生の中には、「ネット疲れ」を起こしている子が多数いると言われています。いつも誰かとつながっていたいけど疲れてしまう。これがネット依存傾向にある子に共通する気持ちだと思います。この共通する思いをもとにして進める、次の指導を考えてみました。

- ① ネット疲れの子がいることを明らかにする
- ② その子たちに共通する心情を明らかにする
- ③ ネット疲れが起きる原因を明らかにする
- ④ ネット疲れを解消するための方法を考える
- ⑤ 解決方法を成功させるための条件を考える
- ⑥ 考えた条件に共通する価値を明らかにする
- ⑦ 自分とネットの関わり方を振り返り、ネット依存防止に向けた自分の取組を明らかにする

対処するための知識や対処方法を知ることが、ネット疲れから抜け出すために必要なことです。その方法を知ることによって子供は救われます。その上で活動⑤⑥を行うことで、前述した内容項目に含まれる価値観や道徳的な判断・思考を学ぶことができ、道徳らしい授業になると考えています。対処方法に共通する考え方を分かっていたら、その考えから派生する方法は無限に広がります。そこがポイントだと考えます。ネット依存そのものに焦点を当て、その防止の方法を考えるとところからスタートし、活動⑤⑥に着陸する方法も考えられます。様々な方法で挑戦してください。